

第0章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

DOLPHINROSE

# AC 無料講座

プロローグ





## 目次

1. ごあいさつ
2. 自己紹介
3. 私とACの出会い

※本教材、および収録されているコンテンツは、著作権、知的財産権によって保護されております。

教材に含まれているコンテンツを、その一部でも、書面による許可(ライセンス)なく複製、

改変するなどして、またあらゆる データ蓄積手段により複製し、

オークションや インターネット上だけでなく、転売、転 載、配布等、いかなる手段においても、

一般に提供することを禁止します。

# 1.

## ごあいさつ

こんにちは(^^)♪ゆうです。

この度は、「アニマルコミュニケーション無料講座」をご登録くださりましてありがとうございます。ありがとうございます。

最初に…

アニマルコミュニケーション…と書くと、とっても文章が長くなってしまいますので、この講座ではアニマルコミュニケーションのことはこれからは「AC」と省略して書かせていただきますね。

---

今、あなたがこの講座を読んで下さっているということは

- ◆動物のことが大好き
- ◆動物とお話がしたい
- ◆ACに興味がある
- ◆ACについてもっと知りたい
- ◆ACを勉強したい
- ◆今、ACを勉強している
- ◆ACを勉強していたが挫折してしまった
- ◆実際に今、ACをしている

などなど当てはまるのではないのでしょうか？(^^)♪

動物たちの純粋で健気で無条件の愛に溢れている魂の波動に触れることは、とても楽しく、そしてとても幸せなひとときです♪

今、それぞれのお立場で読んで下さっていることと思いますが、この講座を読み終わる頃、皆さんのACへの理解がより深まっていればとっても嬉しいです(^^)♪

この講座を読み進めていただくにあたって注意していただきたいことがあります。

### この無料メール講座の内容について

今までの15年程の間に、私が学び、また自分で体感し、独自に分析した結果や理解したことを自分なりの解釈で書いています。

これを読み進められて行く上で、「その考えは受け入れたくない」という内容も出てくるかもしれませんが。

が、ここに書かれているすべてを受け入れる必要は全くありません。

読んでいて心地よいものだけをご自分に落とし込みながら、楽しく読み進められてみてくださいね。

そしてもし出来るなら、日にちが経ってから、もう一度読み直してみてください。

前回読まれた時には、スルーしていたものが急に腑に落ちたりすることがあるんです(\*^-^\*)

ぜひあなたにとって今この時に必要なものを、この講座から沢山吸収して行って下さいね。

## 2.

## 自己紹介

まずは私（ゆう）の簡単な自己紹介からさせていただきます。

1972年1月

私は福岡県飯塚市で産声をあげました。

小さいころから、生き物全てが大好きで、人間の友達と遊ぶより、地べたを這って、アリを追いかける方が好きな変わった女の子でした。

物心ついた頃、私の家には

犬

クサガメ

ミドリガメ

シマリス

セキセイインコ

十姉妹

うずら

ひめうずら

などを飼育していて、隣の猫とも大の仲良しでした。

裏に小さな庭があり、そこではコガネグモに餌をあげたり、カタツムリやヤスデ、ミミズなどを愛でながら日が暮れるまで、生き物を見て過ごす毎日を送っていました。

ただ、そんな恵まれた環境は小学1年生の1学期まで…

そこから親の仕事の関係で高校を卒業するまで5回も転校を繰り返すことになるのです。

行く先々でいじめられたことで益々人間不信になり、動物たちに癒しを求めています。

・・・が、ペット不可の集合住宅に住むことが多かったため、エアで架空の犬を飼っていたりする  
という、かなりいっちゃってる小学生でした(笑)

そんな私の小学生の頃からの夢は高校卒業まで一貫してずっと変わらず

「盲導犬の訓練士」

でした。

絶対自分はなるものだとしじきっていたので、

点字の勉強をしたり、1日に数十キロ歩かなくてはいけないと聞いたので、家から学校まで10km  
以上歩いてみたり、

盲導犬の訓練所にどのような勉強をしていけば良いのかお手紙を出したところA4用紙で5枚程  
の、達筆な毛筆で書かれたお返事をいただいたり・・・

福岡の訓練所に見学に行かせていただいたり・・・

結局はその夢は叶いませんでしたが今となっては良い思い出です。

高校を卒業後、東京に出て10数年

その間に結婚もして出産も経験しました。

そして、旦那のDVや離婚などしなくてもいい経験もしました(>\_<)

当時5歳の息子を持って九州の実家に帰って来たのです。

その時に、2つのことを決意しました。

1つは「息子を立派に育てあげること」

そしてもう1つは「自分で自分を幸せにすること」

自分の好きなことワクワクすることって何だったっけ？

その時思い出したのは殺伐とした日常で遠い昔に忘れてしまっていた「動物たちへの愛」でした。

## 3. 私とACの出会い

私を幸せにしてくれるのは「動物」だ。

そう思った私は、前に何かのテレビで見た

幼少期アフリカで暮らしながら、沢山の動物と仲良しだった「ティッピー」ちゃんのことを思い出します。

大きなアフリカゾウ

沢山のワニ

人間を2人も殺したヒョウ

そんな動物たちと仲良く出来る5-6歳の少女「ティッピー」

見てるだけで癒されると思ったので、まずはネットで調べて写真集を買いました。

『ティッピー野生のことば』

<http://amzn.to/2zG1eul>

この中で彼女は

「絵を描いたり、歌をうたうのと同じように、私は動物たちと話ができる。私は、魂をつかって動物と話をする」

と語っています。

この本には、具体的な動物たちとの会話の仕方は書いてありませんが、

動物たちと仲良くしている写真を見ているだけでも幸せな気持ちになることが出来ました。

ただ、すぐに「ティッピー」という名前を思い出せたわけではなかったので、ネットで検索の際「動物」「話せる」「少女」などのワードで必死で探しました。

そんな時に、必ずひっかかって来たのが「**アニマルコミュニケーション**」という言葉でした。

気になって調べてみると、飼い主の代わりにペットと会話して通訳してくれる「**アニマルコミュニケーター**」と呼ばれる人たちがいることを知ります。

そしてその時、ものすごく昔、テレビでイギリスのアニマルコミュニケーターの女性の特集をやっていたことを思い出しました。

その番組は「世界まるみえテレビ」でした。

調べてみたら、1990年から番組が続いているのですね( °Д° )  
私が中学か高校の時に見たと記憶しています。

その時、あまりの興奮に心臓がバクバクして、頭が真っ白になった記憶があります(^^ゞ

番組の中ではACのセミナー風景が流れていて、

「誰でも練習すれば動物と話せるようになるんですよ」

とっていました。

ネットで検索して「アニマルコミュニケーション」というワードに引っかかった時、その時の記憶が鮮明に蘇ってきました。

そこからはもう狂ったようにAC関連のページを検索しまくる毎日(笑)

でも当時（15年くらい前）は日本語でのACの情報はとても少なかったのです。